

住み慣れた自宅で暮らしたい

先日、長く関わっていたご利用者が、他県に住むご家族と同居するため終了となった。要支援の頃から状態の変化に合わせて福祉用具の利用が多くなった方だった。

福祉用具をはじめとした介護サービスを利用して、ずっと一人で生活してきた方だ。もう何年も前から家族より同居の話が出ていたが、本人がずっと拒否してきた。拒否というと聞こえが悪いが、本人が住み慣れた自宅で暮らしたいという希望があったのだ。それは、長くその土地で暮らしているため近隣の方との関係や友人とおしゃべり、日常生活のルーティーンがあり、それが「生きがい」になっているとのことだった。

年月が経つにつれて本人の状態が徐々に低下し、一人暮らしだと転倒など事故のリスクが増えてきたため、本人も納得し家族との同居を選んだ。「長い間お世話になりました。ぎりぎりまで一人でこの家で暮らしたかったけどここが限界みたいです」とおっしゃったのが少しさみしく感じた。

(2019年2月)

